

日本パイプスモーカーズクラブ機関誌「P I P E」(休刊中)の第1号発刊に際し、初代J P S C世話人代表、2代O C J会長の故岡部一彦氏が寄せられた一文を紹介します。パイプクラブ設立の経緯と意気込みが感じられます。

## 日本パイプスモーカーズクラブのこと (P I P E誌 No.1号より)

「パイプは何千円のものから何十万円というものまで値段の開きが大きいですが、同じタバコでも、値段の高い上等なパイプで吸うとおいしいのか？」

そんな質問をよくうける。こういうとき、私は次のように答えることにしている。

「なあに、パイプなんていうものは酒器や茶器と同じものさ。伝統に支えられた名工の作品は、見かけばかりでなく、手のひらや唇にかかる感触、重さ、その他もろもろの要素が、愛用品としても芸術品としても立派な作品となっている。木目の美しさ、大きさ、重量、カーブ、口あたり、てのひらへの感触、火をいれたボウルの暖まり具合……。それらのすべてを微妙に作り上げてゆく技術と伝統が結集されたもので、愛蔵品となり得る作品かどうかはパイプの価値の差になっている。いわば、英国のローヤルダルトンのコーヒー茶碗と、最近のグッドデザインとレットルの貼られたコーヒー茶碗の違いと同じことだ。いくらGマークのつけられたものでも、あんなタンツボみみたいなカップでコーヒーがおいしくのめるわけがないじゃないか。特によいコーヒーをのもうというなら、タンツボまがいのものだけはやめたほうがよい。日本のお茶でも、酒でも同じだ。嗜好品であるタバコだって例外であるはずがない」

嗜好品であるタバコはあくまで自分の好みで吸うべきで、レディメイドのお仕着せで満足するなんてミジメだとは思わないか……。

自分の好みのタバコを吸おうとすれば、まずパイプ以外はない。パイプならばいろいろなタバコを勝手にミックスして吸えるし、自分の好みを探し出すことも、作り出すこともできる。一本のパイプさえあれば、自分で各種のタバコをミックスしたり、朝のタバコと夕食後のタバコを変えて楽しむこともできる。その時々コンディションにあったタバコだって作れる。

世界じゅうどこにもタバコ好きは多いとみえて、先進国はどこもパイプ好きのクラブがある。そして、どこの国でもこういったほんとうのタバコ好きのグループがおいしいタバコをつくりだしてきている。

ヨーロッパ諸国のパイプクラブは、おいしいタバコを作り出す大きな力になった。特に英国のタバコメーカーは諸外国のタバコマニアの好みにあわせた味を種々研究して作った。そのために世界じゅうに輸出され、国の産業に大きな貢献をしているし、アメリカでも大

量生産化が進み、パイプタバコの一般化を進め、おいしいタバコを安く提供することに成功している。

だいたいパイプタバコのおいしい国は、シガレットもおいしいものだ。パイプタバコは紙で巻いたりフィルターをつけたりするような製造上の手間はいらぬ。それだけにタバコ自体に手間をかけられるから、同じ値段でも、より上等な、よりおいしいものが作れるのは当然である。化粧品じゃあるまいしよけいなどころへ金と手間をかけるより、充実した中身の方が大切なのだ。

いったいどんなタバコがおいしいのか？どんな吸い方が楽しいのか？一人で考えているよりも、好きな仲間が寄りあって情報を交換し、研究しあったらどんなに楽しいだろう。

なにげなく思ってたって、調べてみておどろいた。日本にあるパイプクラブは専売公社の宣伝機関として、公社のお声がかりで集めたグループがたった一つ。いわば御用クラブであり、本格的なタバコマニアの自主的なクラブではないのである。世界じゅうどの国のパイプクラブを見ても、こんな例は一つもみあたらないのではないか。

「ひとつどうだ。ほんとうに好きな連中だけで、本格的なパイプクラブ作ってみては？」という人たちがでてきた。

「パイプコレクターの集まりと間違えられないようにパイプ・スモーカーズ・クラブがいい」という人もあった。

そしてアレヨアレヨといっている間に、あちらこちらのみんなで、どんどん具体化され、有名な人や偉い人たちもびっくりするほど積極的に参加された。私のようにボヤボヤしているとハッパをかけられる始末である。とうとうネをあげて提案した。

「クラブは趣味の集まりで、仕事や商売とは全然関係がない。これをはっきり規約のなかでうたっておこうじゃないか……。年令、社会的地位、財産などとは関係なく、クラブメンバーはクラブ内においては全員平等であることというのはどうだろうか。したがって同人制をとって、運営は世話人がやることにしたら？」

ところがまたおどろいたことに「そいつはいいや、それでこそ面白い。やれやれ……と賛成するものが増え一気に結成されてしまった。

クラブは毎年一本ずつメンバーズパイプを同人に配布しようということにもなった。

型はその都度、総会で決める。そのパイプには、クラブ名と、同人の会員ナンバーを打ち込むことにした。ナンバーは頭に配布した年を入れ、次に個人のナンバーを打つ。たとえば JPSC 67 056 とあるものはジャパン・パイプスモーカーズクラブ、67年度のメンバーズパイプで、五十六番の同人ナンバーの人のパイプということである。この人の今年のパイプは JPSC 69 056 となるし、来年度は 70 056 となる。

しかも、このメンバーズパイプは、あくまで会費のなかから作られるという条件つきで

ある。さて、この条件のなかで、パイプにうるさい人たちの満足のいくものが果たして作れるのだろうか？

心配していると、フランスのシャコムが名乗りでた。「日本のクラブのメンバーズパイプを作れるのは光栄である。ぜひうちで作らせてくれ」というのだ。すぐに同人にはかった。結論がでた。「シャコムなら世界的なメーカーだ。結構じゃないか……………」

ちょうどフランスからシャコムの社長が来日したので、直接お目にかかっているいろいろ話しあったところ、こちらの注文どおりの型と材質を揃え、しかも社長みずからチェックしようという。これには同人一同大喜び。ともかく最初のナンバーは平等がたてまえからクジ引きできめてウラミっこなしにし、あとは入会順にしようということで、第一回のメンバーズパイプ（67年）が決まった。

昨年（68年）は正装でも使えるイブニングドレス。それもインドア用のロングマウスピースを別につけることになり、ローランドのブランドで有名な国産一流メーカー深代氏が引き受けてくれた・

そして今年（69年）は、英国のオーリック。ラフなスタイルのときにどこへでも持ってゆけるように、型はローデシアンベント。それもシェルブライヤーという凝ったものにした。これは十一月の総会までには英国から送られてくるはずで、メンバー一同今から楽しみにしているところだ。

クラブはこれまでに、毎月の懇話会や、年2回の親睦旅行会などをやってきたが、近い将来、全日本パイプ・スモーキング・コンテストの計画も持っている。全日本の長時間喫煙のチャンピオンをきめ、毎年各国持ち回りでやっている世界選手権に、日本から選手を送り出したい……………と、パイプをくわえながら、同人たちの夢は大きくふくらんでいく一方なのである。

（デザイナー、登山家）故人

日本パイプスモーカーズクラブ世話人代表（初代）

## 岡部氏文章

### 1. 「PIPE」誌

PIPE 誌は JPSC の機関誌として、1969年11月に創刊第1号が発刊された。以降ほぼ四半期ごとに刊行され、1982年10月の第79号まで号を重ねる。

故松山荘二氏の名編集により、パイプの世界をリードするものとして高く評価されていた。

### 2. クラブパイプ

第1回 創立当初（岡部氏文中にある）に配布された年間パイプ、会員番号刻印入り。

1967年から72年まで毎年配布された。

第2回 1992年、創立25周年記念パイプ。ビリヤード型、銀まき、黒塗り、競技用（3グラムは十分に入る）。会員番号刻印入り。

第3回 1998年、メシャムパイプを配布。年末の総会にて色付けコンテスト実施。

第4回 2007年、創立40周年記念パイプ。ロバット型、朱漆塗り、（ゲスト用は黒漆塗り、40th. ANNIV JPSC,2007の記念刻印と会員番号刻印入り）。

チャンピオンパイプ 入会3年後に取得の権利が生じる。例会のコンテストに優勝すると、1回に限り取得できるパイプ。Dunhill、シェル、④サイズのパイプ。シェープは自分の好みで選べる。会員場号刻印入り。この制度は現在も続いている。

### 3. パイプスモーキングコンテスト

1969年に2度のトライアルを行い、1970年から例会のテーマ行事として行なっている。JPSCの例会の使用タバコの量は1992年以降は2グラムに定着。

1972年に第1回全日本選手権大会を主催、第3回大会以降は連盟主催に。

### 4. 世界選手権大会

4年に一度開催される。直近では、2006年にチェコで第11回大会が開催された。

2010年にはポルトガルで開催される。日本から参加希望者がツアーを組んで参加している。

第3回（帝国ホテル）と第7回（JT東京工場）は日本で開催された。

世界大会が開かれない偶数年にはヨーロッパ選手権大会、奇数年にはチーム対抗のワールド・カップが開催される。